

3人のレンガ職人

その学習課題は、子どもたちにとって「自分事」?

2019.09.19

No.77

校長 渡邊 幸二

先日、ある研修会の席で、元庄内教育事務所長のM. T先生のご講話を聞く機会がありました。その中で、考えさせられる逸話がありました。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんがご紹介します。イソップの「3人のレンガ職人」のお話です。

世界中をまわっている旅人が、ある町外れの一本道を歩いていると、一人の男が道の脇で難しい顔をしてレンガを積んでいた。

旅人はその男のそばに立ち止まって、「ここでいったい何をしているのですか?」と尋ねた。

「何って、見ればわかるだろう。レンガ積みが決まっているだろ。朝から晩まで、俺はここでレンガを積まなきゃいけないのさ。あんた達にはわからないだろうけど、暑い日も寒い日も、風の強い日も、日がな一日レンガ積みさ。腰は痛くなるし、手はこのとおり」

男は自らのひび割れた汚れた両手を差し出して見せた。

「なんで、こんなことばかりしなければならないのか、まったくついてないね。もっと気楽にやっている奴らがいっぱいいるというのに・・・」

旅人は、その男に慰めの言葉を残して、歩き続けた。

もう少し歩くと、一生懸命レンガを積んでいる別の男に出会った。先ほどの男のように、辛そうには見えなかった。

旅人は尋ねた。

「ここでいったい何をしているのですか?」

「俺はね、ここで大きな壁を作っているんだよ。これが俺の仕事でね。」

「大変ですね」

旅人はいたわりの言葉をかけた。

「なんてことはないよ。この仕事のおかげで俺は家族を養っていけるんだ。ここでは、家族を養っていく仕事を見つけるのが大変なんだ。俺なんて、ここでこうやって仕事があるから家族全員が食べていくことに困らない。大変だなんていっていたら、バチがあたるよ。」

旅人は、男に励ましの言葉を残して、歩き続けた。



また、もう少し歩くと、

別の男が生き活きと楽しそうにレンガを積んでいるのに出くわした。

「ここでいったい何をしているのですか?」

旅人は興味深く尋ねた。

「ああ、俺達のことかい?俺たちは、歴史に残る偉大な大聖堂を造っているんだ!」

「大変ですね」

旅人はいたわりの言葉をかけた。

「とんでもない。ここで多くの人が祝福を受け、悲しみを払うんだぜ!素晴らしいだろう!」

旅人は、その男にお礼の言葉を残して、また元気いっぱい歩き続けた。

このお話を自分の学校における仕事として考えることを、M先生はおっしゃったのですが、みなさんはどうお考えになりましたか。

イソップ寓話をはるか昔に作られたお話ですが、昨今経済学などで盛んに語られるドラッグーの話にも通じるものです。私も、その研修会で飽海の何人かの先生方を前にお話させていただいたのですが、中身は一緒でした。

オーナーシップ

3人のレンガ職人の中で、おそらく一番良い仕事をしているのは間違いなく3番目の職人です。

それはなぜか？

自分の仕事を、自分事として考えているからでしょう。やらされている仕事でも、カネのために、家族を養うためにという目的で

働いているでもない、“歴史に残る偉大な大聖堂を造る”という強い使命感を持って望んでいるところに大きな違いがあります。「レンガを積む」のが目的になっている1番目の職人との大きな違いがここにあります。3番目の職人にとって「レンガを積む」ことは単なる手段に過ぎません。“大聖堂を造る”という、最終的な大きな目的が見えているのでしょう。この人なら、おそらく黙々とレンガを積みながらも「オーナー」として、最善の仕事を提供しようとするでしょう。

もし、みなさんが家を新築することになったら、1番目や2番目のような大工さんではなく、3番目のような人に設計・施行してほしいと思うに違いありません。

その学習課題は、子どもたちにとって「自分事」？

さて、子どもたちの日々の学習を考えた時、子どもたちはどれほど「自分事」として課題を考えられているのでしょうか。もし課題がいつも先生に与えられたものであれば、1番目のレンガ職人の気持ちで勉強することになるでしょう。学びの質も当然ですが良いものにはならない、すぐ忘れてしまうようなものになるはずで、進度に合わせ淡々と教科書をを進めること、目的も理解させずにドリル学習を強要することなどは、まさに1番目のレンガ職人を育てているようなものです。

では、どうやって学習を自分事と捉えられるようにしたらいいのでしょうか？

マイスターレポートでもE先生が言うておりましたし、先日の校長室だよりでもお伝えしましたが、毎日の授業の中での「ジャンプの課題」の質だといっていいと思います。よりオーセンティック、生活に根ざした、子どもたちが考えたくなるような課題であれば、多くの子どもたちは「自分事」として捉えられると思うのです。

(No.78につづく)

次世代リーダーの思考①～教員が自走するため

あなたがラストマンとして自走するために必要な構え

「オーナーシップ」とは、個人と組織、個人と仕事との関係を示す概念で、担当する仕事を“自分の課題”と主体的に捉え、強い情熱と責任感を持って取り組む姿勢のこと。

オーナーシップ

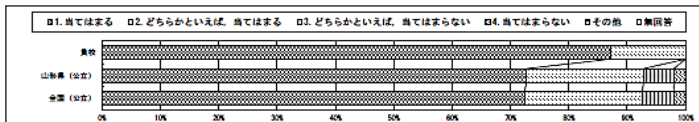
どうしたらいいですか？

自分事＝自分の責任＝自ら判断(報告)

職務怠慢 ← 自ら動くとなしい

自己成長の絶好のチャンスに“見逃し三振”をするのですか？

質問番号	質問事項										
(49)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
豊校	87.1	12.9	0.0	0.0						0.0	0.0
山形県(公立)	72.8	20.0	5.2	2.0						0.0	0.0
全国(公立)	72.3	20.2	5.4	2.0						0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(50)	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
豊校	58.1	38.7	3.2	0.0						0.0	0.0
山形県(公立)	39.8	36.1	18.0	6.0						0.0	0.0
全国(公立)	41.4	35.1	17.3	6.2						0.0	0.0

